

令和4年度 事業所別事業報告

事業所 【 法人本部 】

I 令和4年度の状況

令和4年度も新型コロナウイルス感染症対策として利用者及び職員の感染を防ぐため施設外の研修や行事、様々な交流は中止や自粛となり、また、利用者の面会制限やボランティア等の受け入れも中止することになった。

各事業の経営状況としては、園児・利用者・職員からも感染者が発生、介護老人福祉施設での大規模なクラスター発生に伴い、通所系の事業は営業の中止や、長期休業もあり収入が大きく減少した。入所系の事業では、感染症対策での衛生物品購入、医療廃棄物処分（業務委託）に経費が嵩んだ。それに加えて、利用者の減少や物価高騰の影響、保育事業については少子化による園児の減少等で、どの事業においても収入減少と支出の増加で経営に苦慮した1年であった。令和5年5月から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類感染症に変更されるも、引き続き、地域の感染状況に合わせた対策を検討・実施していき、事業の継続と経営の強化に努めたい。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① コンプライアンス (法令遵守)の強化	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度 児童福祉行政指導監査：賀茂保育園（監査実施：R4.12.23） 令和4年度 老人福祉施設指導監査：介護福祉施設、ケアハウス 新型コロナウイルス感染症の影響で県（担当）が中止した。 法令遵守及び虐待防止に努めた。 全体会（研修）「交通安全」「職業倫理法令遵守」「虐待防止」実施した。
	② 非常時における安全 確保・対策	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練回数 三朝温泉三喜苑 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 夜間通報訓練 2回実施した。（そのうち1回は抜き打ちで実施） グループホーム仁の里 避難訓練 2回実施した。（日中想定1回・夜間想定1回） 三喜苑西郷（通所介護） 避難訓練 1回実施した。（日中想定1回） 防災研修を実施した。63名参加した。 （全体会研修を予定していたが感染症対策のため中止。各部署で実施） 職員の労働災害：（業務災害32件（内25件が職場内でのコロナ感染）） （最近の状況 令和2年度：1件/令和3年度：3件）
	③ 苦情の解決・リスク の管理（マネジメント：管理・分析・改善・成果を引き出す）	<ul style="list-style-type: none"> 苦情相談受付件数 6件 毎月苦情解決委員会を開催し、苦情、相談、質問について内容を確認し、対応策や解決結果について確認した。 苦情解決第三者委員会を開催し、発生した苦情解決状況等を説明及び意見聴取した。（年間2回/4月、10月実施） 職員状況 採用10名・退職16名 労働者不足の対策 公共職業安定所（ハローワーク）の活用、民間人材紹介会社へ情報収集・発信した。 （採用経路：新卒者（1名）、ハローワークや職員の知り合いの紹介などで計8名採用。民間人材紹介会社からの紹介で1名採用。） 育児休業中の職員への情報提供や情報収集にも努め、スムーズな職場復帰へ確認・調整した。（育児休業中又は復帰後に退職した者：なし） 新型コロナウイルス感染症対策を整備し感染予防に努めた。 （マニュアルの見直し、面会室（非接触）を活用し家族との面会を実施した。利用者・職員の新型コロナウイルスワクチン集団接種（2回）を実施した。抗原検査キットを購入し、職員の同居家族の学校等から新型コロナウイルス感染者が発生した時など、職員は出勤前に検査を実施した。（感染状況確認）
能力開発	① 職員個々の資質向上 (研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実)	<ul style="list-style-type: none"> 各種研修会を毎月実施 全体会（毎月開催）：平均 73名参加あり。（令和3年度：平均 71名参加） 職員研修（年間4回）：平均 34名参加あり。（令和3年度：平均 24名参加） *全体会…予備日を設けて研修に参加しやすい体制に変更した。 しかし、クラスターの関係もあり予備日が設定できない月もあった。 *職員研修…新型コロナウイルス感染症対策で、各事業所で研修を実施した。 施設外研修 延べ 89名参加（令和3年度：延べ 100名） 新人研修（年間1回）：対象者 5名受講

能力開発	①	職員個々の資質向上 (研修参加・資格取得支援と受講・内部研修の充実)	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度実績(取得状況) 介護実務者研修 1名、介護施設における安全対策担当者養成研修 5名 認知症介護実践リーダー研修 3名、介護支援専門員更新研修 1名、 介護福祉士 1名、保育士 1名 施設内研修(新人研修・職員研修・全体会)については、アンケートを実施し研修の評価・振り返りを行った。 職員研修・全体会:新型コロナウイルス感染症対策をしながら開催した。 (会場を分散し、オンライン研修を実施した。)
	②	給与・働き方に関する規程の見直し(同一労働同一賃金への対応)	<ul style="list-style-type: none"> 「働き方改革(賃金・待遇等)」を踏まえ役職員給与規程を改正し、令和4年2月から適用(支給)した。 (保育:処遇改善特例事業/介護:処遇改善支援補助金の活用) 年次有給休暇の確実な取得に向けた仕組みについて、新規採用者研修時の説明や衛生委員会、主任・リーダー会への情報提供、法人本部近況報告等により周知した。 鳥取県最低賃金改定に伴い、臨時警備員基本給を改正した。 (令和4年度10月分給与から適用/鳥取県最低賃金821円から854円に引き上げられた)
	③	業務の見直しと効率化(ICT活用/業務手順の見直しと統一)	<ul style="list-style-type: none"> 補助金を活用し三喜苑ネットワーク改修工事を実施、回線速度の改善を行った。 WEB会議ツール「ZOOM」を導入し、委員会、研修、他事業所とのカンファレンス(会議)等で活用した。 今後も見守りセンサー(介護ロボットに分類される)、インカム、グループウェア等の導入を検討し、業務改善に繋げていく。 ※ インカム:インターコミュニケーションシステム 無線機器の一種 ※ グループウェア:スケジュールや業務管理などのソフトウェア
地域	①	ヒト:職員の派遣 (研修講師・介護教室など)/ボランティアの活用・見直し	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア受入 0名 (令和3年度:延べ33名) 新型コロナウイルス感染症対策により受入を中止した。 講師派遣(5回派遣)…三朝町主催 介護予防教室 3回 (令和3年度:10回) 三朝町社会福祉協議会主催 健康教室 2回
	②	モノ:非常時における避難(スペース有効利用)/情報開示・発信(HP・広報誌)	<ul style="list-style-type: none"> 情報公開(決算状況):ホームページ(HP)に情報を掲載(公表)した。 (法人事務所(玄関)でも情報公開している。) 機関紙「太陽」年4回発行した。(107号~110号) 福生会ニュース(ホームページ上の名称) 月平均 75件情報発信した。(令和3年度:平均69件) 外部の各居宅介護支援事業所等に、利用状況のご案内や施設における新型コロナウイルス感染症対策について情報発信した。
	③	カネ:社会福祉充実残額の算定と計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度における社会福祉充実残額は△368,020,000円のため、社会福祉充実計画の策定は不要ではあるが、公益的取組み(地域貢献)は実施した。 公益的取組み:介護予防教室への講師派遣 等 エコキャップの回収(地域貢献委員会) 利用者負担軽減制度の実施:対象者 2名 新型コロナウイルス感染症対策により中止した事業(行事) 福生会祭り、論語三代、地域交流会 認知症カフェ(わらわあ会)…開催なし 新型コロナウイルス感染症対策により中止した。
業務	①	支出管理の強化 (増税対応含む)	<ul style="list-style-type: none"> 月毎の収入や予算執行状況を所属長等に報告し、収支状況等の情報共有を図った。
	②	設備投資と計画(エコ・大型機器の入れ替え・計画)	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスクラスター発生に伴い、感染症対策物品の購入や医療廃棄物処分(業務委託)に経費が嵩んだ。 補助金事業 ①面会室工事(令和3年度鳥取県地域医療介護総合確保基金(介護分)補助金) ②施設内ネットワーク機器改修(令和4年度鳥取県新型コロナウイルス感染症対策非接触型面会・支援事業補助金)
	③	法人本部の機能強化及び「組織」の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度に向けて、通所介護事業所(三朝)利用者定員を35名に縮小、認知症通所介護事業所の休止を判断し手続きした。 賀茂保育園:指定管理者5年間更新(R5.3.20:基本協定締結) 三朝町と協議を重ね、指定管理者指定申請し、三朝町議会臨時会で決定された。 現況報告書(定期報告)の提出。 B C P(業務継続計画)策定の検討は実施できなかった。令和5年度中に策定をする。

令和4年度 役員会等の開催・実施状況

日 付	会議名(開催時間)	主な議案・内容
令和4年5月11日	監査会 9:00～	○ 令和3年度 事業の監査
令和4年5月22日	第102回理事会 9:00～	○ 令和3年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 評議員の退任及び評議員選任候補者の推薦について ○ 評議員選任・解任委員会の開催について ○ 評議員会の開催について ○ 第101回理事会 決議の省略(みなし決議)について(報告) ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和3年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 軽費老人ホーム事務費(補助基準額)単価(報告) ○ 令和4年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告)
令和4年5月31日	第5回評議員選任・解任委員会 10:00～	○ 評議員の退任について ○ 評議員の選任について
令和4年6月10日	第78回評議員会 10:00～	○ 令和3年度 各事業 事業報告及び収支決算について ○ 令和3年度 社会福祉充実残額について(報告) ○ 評議員選任・解任委員会の結果について(報告) ○ 令和4年度 社会福祉法人福生会 組織図(報告)
令和4年6月13日	第6回運営協議会 【書面開催】	○ 福生会への意見聴取について ○ 令和3年度 各事業所 事業報告について ○ 令和4年度 各事業所 事業計画について
令和4年9月11日	第103回理事会 9:00～	○ 三朝温泉三喜苑 施設長(施設の長)交代について ○ 理事の辞任及び理事候補者の推薦について ○ 評議員会の開催について ○ 職務執行状況について(報告) ○ 令和3年度指定管理業務評価結果通知書(賀茂保育園)(報告)
令和4年9月21日	第79回評議員会 10:00～	○ 理事の選任について
令和4年9月25日	第104回理事会 9:00～	○ 業務執行理事の選定について ○ 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について
令和4年11月13日	第105回理事会 9:00～	○ 令和4年度 各事業 追加補正予算について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 令和4年12月支給分 勤勉手当の支給月数について ○ 苦情解決第三者委員の交代について ○ 苦情解決第三者委員の重任について ○ 三朝町立賀茂保育園 指定管理者更新の意思決定について ○ 職務執行状況について(報告)

日 付	会議名(開催時間)	主な議案・内容
令和5年3月12日	第106回理事会 9:00～	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度 各事業 追加補正予算について ○ 三朝町立賀茂保育園 園長(施設の長)交代について ○ 賀茂保育園 運営規程の一部改正について ○ 三朝温泉三喜苑 通所介護事業所 運営規程の一部改正について ○ 仁の里認知症通所介護事業所 事業の休止について ○ 令和5年度 各事業 事業計画及び予算について ○ 令和5年度役員等賠償責任保険契約について ○ 役職員給与規程の一部改正について ○ 職務執行状況について(報告)
令和5年3月22日	社会福祉法人 13:30～ 役職員研修会 (参加役職員:2名)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 講義 :役員及び評議員の改選に当たっての留意事項 ○ その他連絡事項 <p>【オンラインによる開催】</p>

【令和4年度の苦情解決に関する委員会】

日 付	会議名(開催時間)	主な議案・報告事項
令和4年4月27日	苦情解決 13:30～ 第三者委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度の苦情相談受付の報告 ○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について 説明及び意見聴取
令和4年10月3日	苦情解決 11:00～ 第三者委員会	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当事業所にて発生した苦情解決状況について 説明及び意見聴取

* 令和4年度(年間)苦情相談受付件数:6件 (昨年度:7件)

- 苦情相談の内容
- ・ サービスの内容(職員の接遇)に関する事 …… 1件
 - ・ サービスの内容(サービスの質や量)に関する事 …… 3件
 - ・ その他(送迎に関する事) …… 2件

* 苦情内容については機関紙「太陽」で公表している

* その他「苦情解決委員会」を毎月開催。苦情・相談・質問等について、毎月検討している。

(構成メンバー:苦情解決責任者、苦情受付担当者等)

令和4年度 事業所別事業報告

事業所 【 介護老人福祉施設 】

I 令和4年度の状況

新型コロナウイルス感染症の対応におわれた1年であった。クラスター発生に伴い、様々な制約もあり十分なサービス提供ができなかった。また、罹患者の隔離対応が長引いたことで、療養期間後の身体機能や認知機能の低下が目立ち、それにより入院となった利用者が多かった。他施設でも感染が相次ぎ、入所のための準備が進まなかったことや療養期間中の受け入れ制限のために長期間定員70名を満たさない月もあり、収入減の要因となった。今後はクラスターを発生させないことが重要であり、感染予防対策を継続しサービスの提供を維持する。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 専門的な介護サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケア会議を開催した。クラスター発生により中止2回、書面開催3回 対応困難な事例やよい関わり方を検討し、情報共有を行った。 学習療法を継続実施したが、職員体制により学習回数が減少。平均5回/月 食事摂取量をめやすに看取り期を見極めご家族へ報告、相談を行った。ご家族と直接面会やふるさと訪問実施。ご家族が遠方におられる場合でも連絡を密にし、関わりを持つことができた。 歯科医師による勉強会を6回実施した。口腔ケアについて助言を受けた。
	② 自立支援の介護の推進	<ul style="list-style-type: none"> 食物繊維やオリゴ糖を利用し、負担の少ない排便コントロールを行った。 おむつからトイレでの排泄へ移行できた方もあれば、身体状況の変化によりパット交換対応になられた方もあった。 経口維持加算算定者22名 月1回多職種で食事観察を実施し、食事形態、提供量、環境等が適しているか確認した。
	③ 楽しみながら、安心、安全、満足の得られる生活の提供	<ul style="list-style-type: none"> 調理活動（9回/年）や季節を感じられる献立（9回/年）を提供した。また、選択食も取り入れた。 コロナ禍で制限が多い中、苑周辺での散歩や日光浴を実施した。 YouTubeを活用し歌や動画の視聴、折り紙、塗り絵、計算プリントの提供。 虐待の芽チェックリストにより日々のケアの振り返りを行ったが、同じ項目が課題となることが多かった。 表皮剥離を繰り返される方、継続して褥瘡の治療が必要な方があった。その都度、発生要因を考え対応し、早期治癒につなげた。 クラスターの発生により、安心、安全、満足の得られる生活が提供できなかった。職員の確保も難しく、最低限のサービス提供しかできなかった。
	④ 病院との連携をはかる	<ul style="list-style-type: none"> 入院時には病院に情報提供を行い、退院前には状態の聞き取りやカンファレンスに参加し、内容を職員間で情報共有した。 谷口病院と意見交換会を1回開催、入院診療計画書の提供や退院調整の窓口を確認した。
能力開発	① 特養ミーティングで各種研修を開催し理解を深める	<ul style="list-style-type: none"> クラスター発生の影響により、特養ミーティングが開催できなかった。 全体会の動画研修の視聴を全職員に徹底した。
	② 認知症利用者への対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践リーダー研修を1名受講し修了した。伝達研修は実施できなかった。
地域	① 面会システムの充実	<ul style="list-style-type: none"> クラスター期間中は面会の中止や制限を行った。9月12日面会室完成。平均44件/月、定期的に来苑されるご家族もあった。
	② 地域の保育園・小中学校・ボランティアとの交流	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、直接的な交流はできなかった。 クラブ活動はクラスター期間中は実施できなかった。習字、生け花、染物など職員で実施できるクラブ活動を行った。 ボランティアの受け入れは感染症予防のため中止した。
	③ 福生会ニュースを掲載する	<ul style="list-style-type: none"> 福生会ニュースを年15件掲載した。（目標：月2件以上）
業務	① 職員の健康維持	<ul style="list-style-type: none"> 慢性的な腰痛を抱えている職員はあるが、腰椎ベルトの着用や無理をしないことで悪化防止に努めている。 介護リフト（移動・移乗用）や福祉用具を活用し介護労力を軽減した。
	② 安定的経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 平均入院者数4.5人/日（目標：1日平均4人以内） 新型コロナウイルス感染症療養後の入院が多かった。（8月～10月 平均入院者数：約7名/日）

<令和4年度入所者状況>

平均要介護度：4.0

退所者数：26名（看取り14名、病院退所12名）

待機者数：90名

※参考：令和3年度入所者状況

平均要介護度：3.9

退所者数：31名（看取り23名、病院退所8名）

待機者数：94名

I 令和4年度の状況

感染症対策を行いながら限られた条件の中で活動をしてきた一年となった。感染予防として居室隔離となった方が度々ある中で、一定期間活動の範囲が限定されることによる体や認知機能への影響が心配されたが、隔離解除後は徐々に普通の生活に戻れている。自分自身の体調や生活の様子を正確に医師へ伝えることが難しく、職員へ情報提供を依頼される方が増え、関係者との情報共有や連携を特に意識して行った。

ケアハウスでの生活を維持するために、環境整備や業務の見直しをする必要があった。入居後、早い段階で体調や身体能力に変化があり入退院を繰り返された後、三喜苑短期入所を併用される方が1名あった。

今年度は5名の退居があった。急な退居となった方も2名あり、満床を維持できない月が2回あった。(基準：初日在籍)

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① サービスの質の向上(全体)	<ul style="list-style-type: none"> 認知症レクを週6回実施が定着するまで2か月かかった。思い出脳トレのみ継続。レクリエーションの自粛を行っておりできることが限られた中、体操のみ実施の期間が長く続いた。 ミニ講座を年5回実施できた。感染症予防対策のため予定変更や資料提供のみで内容説明をケア職員で代行することもあった。 年間2回の全体避難訓練に参加。毎月予定していた自主的な避難練習は3回実施。利用者が居室隔離対応になることが多く、感染症予防のため人が集まる機会を自粛した。
	② サービスの質の向上(個人)	<ul style="list-style-type: none"> 思い出ドライブを計画し個別外出支援も行ったが、同じ方が繰り返し希望されることが多かった。年間1人1回以上の個別外出は、外出を希望されない方もあり未達成。 毎月ケア新聞「やまぶき」(以下、新聞)を発行した。家族へ利用者の様子を写真に撮り報告した。発送時期が遅れがちになることが課題。 「アドバンス・ケア・プランニング」については希望者がなかった。内容の理解が難しく実感が無い様子。人生会議の実施は医師やケアマネなどの協力が必要となり実施方法に課題が残った。
能力開発	① 人材育成と資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関する学習を2回実施。動画を各自で選び視聴し、選んだ理由と学んだことを後日提出した。 レクリエーション研修に2回参加した。5/15「簡単レク」、10/16「クラフト」参加。11月は中止。 全体研修は後日の動画視聴も含め毎月全員参加。1月開催の職員研修へ1名参加。
	② 接遇力向上	<ul style="list-style-type: none"> サービス向上委員会の接遇チェックリストを使用し、接遇目標を決めて毎月評価した。目標を意識することで改善してきている。 利用者、家族アンケートを11月実施し、1月結果報告。食事に関する要望が多かった。苦情や要望を出す方法を知らない方が半数以上おられた。
地域	① 地域・保・小・中との交流	<ul style="list-style-type: none"> 6月賀茂保育園へ資材(空き箱など)提供。直接会っての交流は感染症予防のため中止。 4月一斉清掃へ参加。地域行事への参加は、感染症予防のため交流に制限あり中止。
	② 地域貢献の実施	<ul style="list-style-type: none"> 花いっぱい運動、ペットボトルキャップ収集を継続。 行事食の仕出しや外出行事、日頃の買い物に地元の飲食店や商店を利用した。
業務	① 安定的経営	<ul style="list-style-type: none"> 満床維持(毎月初日在籍)未達成。8月1室、9月2室初日空室となる。待機者確保5名。 感染症予防のため、関係機関への電話や新聞配布で情報提供した。入居や空室の問い合わせ17件。生活保護受給者の方からの問い合わせが増えている。
	② ホームページの活用	<ul style="list-style-type: none"> 福生会ニュース36件掲載。ホームページを見て頂けるよう、家族への手紙に福生会ニュースの投稿状況を記載した。(3月から記入)
	③ 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 病院、厨房と情報共有が確実にできる様に専用シートを作り連携を図った。ケアマネへ個別に新聞を送り、利用者の様子を伝えた。 利用者の状況、職員の動き、感染症の状況等変わる度に業務内容を再検討し変更した。マニュアル変更は未実施。

注：「アドバンス・ケア・プランニング(人生会議)」=もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって自分自身で考えたり、信頼できる人たちや医療・介護関係者と話し合ったりすること。

I 令和4年度の状況

介護老人福祉施設（以下、特養）において新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生、感染拡大防止のため約1か月半休業した。利用者数が減少傾向にあったことに加え、この休業により収入が大幅に減少した。休業の間他事業所を利用され、そのまま利用を終了された方も複数名あった。また自宅で過ごされた方の中には、体調不良や転倒等で入院された方も多く、サービス提供を継続して行っていくことの重要性を改めて感じた。コロナ禍で行事等が中止になる中、オンラインレクなど新しい取り組みも導入し、利用者の満足を提供することができた。今後は、利用者を引きつける新たな特徴をつくりながら、新規利用者獲得へ繋げていきたい。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者に応じた機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 運動機能実施者の介護度維持・向上の評価基準値73%で目標（70%以上）達成。これにより令和5年度は事業所評価加算が算定可能となる。 集団体操を実施し、運動の動機付けを行った。
	② 個別性に応じたサービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の要望を聞きながら習字クラブの回数を増やしたり、季節の作品作り、裁縫、カラオケ等、利用者の好みに応じた活動を提供した。 コロナ禍で外出行事は控えたが、秋祭りなど季節の行事を数日間開催するなど工夫しながら実施した。 オンラインレクを取り入れ、普段のレクリエーションとは違う楽しみを提供することができた。
	③ 家族・各事業所との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 特養で新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生、感染拡大防止のため約1か月半休業することになった。その間事業再開に備え、利用者宅を訪問、各事業所との情報共有、営業活動に努めた。 休業期間はサービス担当者会議への参加は控えたが、それ以外は出席し、家族・各事業所へ状況報告を行った。 家族アンケートを1月に実施した。今後の取り組みにいかしていく。（61名に配布し、51名から回答あり：回収率84%）
能力開発	① 職員の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ミーティングで勉強会を開催。（7月：電話対応について、10月：認知症、11月：緊急時の対応、12月：感染症について、1月：移乗について）実践的な研修も実施し日々のケアにいかすことができた。 施設外研修は鳥取県中部の新型コロナウイルス感染症警報の状況に応じながら参加した。（レクリエーション研修：4名参加） 施設内研修年3回、延べ26名参加。 認知症介護実践リーダー研修を1名受講し修了した。
	② 感染症対策の再徹底	<ul style="list-style-type: none"> 特養のクラスター以降、必要時にはゴーグルやエプロン、手袋等の着用を継続し、送迎時の換気等も含め感染予防に努めた。利用者が帰る前の手指消毒も定着している。
地域	① 地域貢献と地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> 他団体からの依頼により、出前レク（介護予防教室）に講師を派遣した。（年間5回）地域住民延べ26名の参加があった。 地域行事は中止になることが多かったため参加していない。 福生会ニュースに行事等の様子を掲載し情報発信した（6件/年）
業務	① 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> 利用者数実績：介護保険利用者目標29名/日に対し、24.7名/日。（要介護18.8名/日 要支援・事業対象者5.9名/日）新規利用者17名/年。利用終了者28名/年。8/23～9/30の間、特養のクラスター発生に伴う休業のため、目標人数より大幅に減少した。 デイ通信年3回発行、チラシに空き情報を掲載し、各事業所へ配布した。 中重度者（要介護度3以上）年間利用割合が25.4%で、中重度ケア体制加算算定基準である30%を下回ったため、令和5年度は算定できず。
	② 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録システムを活用し、協力し合いながら記録時間の短縮に努めた。 業務について、都度確認と相談をしながら見直し、改善を行った。新型コロナウイルス感染予防対策の為の業務も増えたが、連携を図っている。
	③ 職員の健康維持及び福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> 送迎中の車両事故3件、労働災害4件あり。車両事故については対策を検討し、運転指導を行った。労働災害4名は全て新型コロナウイルス感染症陽性。（クラスター発生した特養への応援時に感染） 全職員が年次有給休暇を年5日以上取得した。

注1 運動機能実施者＝要支援事業対象者で「運動器機能向上サービス」をうけている利用者

注2 評価基準値70%＝「事業所評価加算」が算定できる基準

注3 オンラインレク＝施設と、そこから離れた場所をインターネットでつなぎ、映像や音声を共有し楽しめるレクリエーション

I 令和4年度の状況

介護老人福祉施設のクラスター発生に伴い、その間は受け入れを中止した。短期入所を利用中にクラスターが発生し、感染された方もあった。療養期間中は短期入所利用を継続することとなり、利用者本人やご家族に負担をかけることとなった。また、感染をきっかけに身体機能が低下し、在宅生活が難しくなれば長期利用に移行とされた方もあった。

受け入れ時の抗原検査の実施、利用基準の設定、利用中の体調変化時の対応の取り決めを行い、利用者が感染源とならないよう注意を払った。

定期的に利用される利用者の中には、インスリン注射、褥瘡処置、胃ろうによる栄養注入が必要な方もあった。農繁期や冬期間等、期間を区切った利用をされる方もあった。新規利用者受け入れの際は、事前の情報収集や利用中の様子の報告等、担当介護支援専門員と連携をはかり、定期的な利用につながるよう努めた。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 認知症利用者への適切なサービス提供	<ul style="list-style-type: none"> 認知症ケア会議を開催し、どこの居室を利用されても同じ対応ができるよう、情報共有を行った。 学習療法は対象者がなく実施しなかった。
	② 利用者のニーズの把握と細かい対応の実施	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の最新の状況の把握、在宅と同じような環境の提供に努めた。 援助内容確認書を活用した。変更点はその都度修正し、現状が把握できるようにした。
能力開発	① 認知症利用者への対応力向上	<ul style="list-style-type: none"> 認知症介護実践リーダー研修を1名受講し修了した。 研修修了者による伝達研修は実施できなかった。
地域	① 居宅ケアマネジャーとの連携	<ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議へ出席し、情報交換を行った。（出席率100%） 利用者の状態変化や利用中の様子等、担当介護支援専門員へ報告した。
業務	① 利用者確保	<ul style="list-style-type: none"> 利用者実績 15.1人/日（目標：16人/日） 新規利用者44名、その後継続利用につながった利用者16名
	② 夜勤職員配置加算の算定要件確保	<ul style="list-style-type: none"> 認定特定医行為業務従事者（介護士の吸引、胃ろうの対応）を毎日1名夜勤帯に配置し、算定要件を確保できた。

注 認知症ケア会議 = 留意事項の伝達又は技術的指導に関する会議

	令和3年度	令和4年度	差
利用延べ人数	6,002	5,495	△ 507
平均要介護度	3.1	3.1	0.0
1日平均人数（人）	16.4	15.1	△ 1.3

令和4年度 事業所別事業報告
事業所 【 グループホーム 仁の里 】

I 令和4年度の状況

令和4年12月、当グループホームにて新型コロナウイルス感染症クラスター発生。7名の入居者、4名の職員が感染した。今回は重症化する方はなく収束したが、日々入居者の医療依存度が高まる中、更なる感染対策が必要である。

昨年度に続き、ご家族に少しでも当施設での様子が分かるよう小まめに連絡を取り合った。
(月2～3回の状況報告、広報誌発行時の写真の同封など)

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の調理活動は実施できた。 毎日できる方に軽作業をお願いした。 (洗濯物干し、洗濯物たたみ、シーツ交換等)
	② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> 集団リハビリ、個別リハビリを毎日実施 季節の料理の提供、行事食の提供を行った。 3月11日～3月28日に1名、3月25日～3月31日に1名の入院者あり。
	③ 認知症状に対する適切な対応・安全管理の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 毎月ミーティング時にケア会議実施 誤薬事故発生防止の為、複数人・複数回のチェックを行った。
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 日々の業務の中でケア方法について検討を行った。 連絡ノートの確認をできていない職員がいた為、口頭での確認と周知を併せて行った。 ミーティング時の勉強会について3か月に1回の実施ができなかった為、不定期で計3回の勉強会を実施 (主に、新型コロナウイルス感染症対策について)
	② 認知症に関わる資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度資格取得なし
地域	① 運営推進会議の開催	<ul style="list-style-type: none"> 特養及びグループホーム内でのクラスター発生を受け年間2回開催(残り4回は書面開催)
	② 防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 年間2回実施(日中・夜間想定避難訓練) (夜間想定避難訓練時、倉吉消防署の立ち合いあり)
	③ 地域に貢献する	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ(わらわあ会)は新型コロナウイルス感染症対策もあり開催ができなかった。 地域交流会開催なし。
	④ 地域を理解し信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の奉仕作業のみ参加
業務	① 働きがいのある環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が年5日以上有給休暇を取得できた。 残業時の事前申告を徹底した。
	② 安定的な経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 年間入院者2名(延べ入院日数:22日) 11月から介護職員等ベースアップ等支援加算を取得
	③ 接遇力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 接遇に関する個人評価表を作成し、毎月評価を行い、接遇力向上に努めた。

令和4年度 事業所別事業報告

事業所 【 賀茂保育園 】

I 令和4年度の状況

令和4年度は、園内でも新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、クラスターも経験した。7月からは、消毒、換気、食事時のパーテーション、マスク着用の徹底など、感染症対策をしっかりと行いながらの保育となった。

このような状況下でも、できる状況づくりを行いながら日々の保育活動を工夫し、行事等も実施した。

今年度も、3歳以上児は英会話に取り組み、賀茂の伝統となっている論語の素読やお茶会、坐禅などを通して心の教育に力を入れた。さらに、発達年齢に応じた運動遊びを行い体力づくりに力を入れるとともに、自然活動を通して生きる力を養う保育も継続して取り組んだ。

地域貢献や園児獲得のため、ハロウィンパレードやオープンデーを開催し、本園の取り組みをアピールすることができた。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 質の高い保育の提供	<ul style="list-style-type: none"> 個の見取りと適切な保育に努め、年齢到達目標を見据えた保育を実施。 自然体験活動・運動遊びの年間計画に基づき、園全体で取り組みを実施。 アンケートによる保護者満足度は100%を達成。 接続カリキュラムを町全体で見直し、小学生に向けた取り組みを実施。
	② 経営方針の明確化と特色づくり	<ul style="list-style-type: none"> 豊富な自然体験活動をベースとして (知) 自然散策、体験活動、英語活動、科学あそび、創作活動等を通して毎日がわくわくする保育活動を実践し、コミュニケーション力の育成を図った。 (徳) 定期的な論語、座禅、お茶を通して豊かな心の育成を図った。 (体) 資格者による運動の指導を通して、運動能力の向上と健康な体づくりを行い、運動会行事につなげた。
	③ ネットの活用と積極的な情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 園日よりクラス日より、福生会ニュース、論語日より、食育日より、絵本通信等を定期的に発行し取り組みを周知。 園のHPで園児の様子を毎日伝えることで、安心して子どもを預けていただく環境を図った。まちコミメールを活用し、情報をリアルタイムに伝える工夫を図った。
能力開発	① 職員の資質向上	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価に基づき課題を見つけ、改善に努力。 子どもと絵本を研究テーマとし、グループでの取り組みと実践を福生会施設内研究発表会で発表。この取り組みは今後も継続。 他園との年齢別検討会を実施し、職員の資質向上を図った。
	② 研修への参加	<ul style="list-style-type: none"> 幼児運動指導検定の受講と資格取得（保育士資格1名取得） キャリアアップ研修等の専門分野の受講による資質の向上（1名取得） ミドルリーダー研修受講による指導力向上。
	③ 外部への公開	<ul style="list-style-type: none"> 県教委、町教委、他園保育士による指導助言（計画訪問の実施） 公開保育を1回実施。
地域	① 他園・小・中学校との交流	<ul style="list-style-type: none"> 町内の園児との交流会（年長児2回、竹田保育園（コロナ対応の為中止）） 三朝小学校1年生（年長児とプール交流）、5年生との交流（コロナ対応の為中止） 三朝中学校トライワーク、保育体験の受け入れ（コロナ対応の為中止）
	② 福祉施設・地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> 老人福祉施設訪問（三喜苑など）（コロナ対応の為中止） 老人クラブとの交流の実施（コロナ対応の為中止）
	③ 地域社会への貢献	<ul style="list-style-type: none"> 小、中学校の夏休みボランティア活動の受け入れ（コロナ対応の為中止） 地域でのイベントへの園児の出演（コロナ対応の為中止）、作品展示などの協力（ひなめぐりでのおひな様作品展示） オープンデー（未就園児対象）を5回計画し、4回実施。
業務	① 職員間の協力体制	<ul style="list-style-type: none"> 園行事等の協力体制の確立は、各担当を決め、全職員協力体制のもと実施。 クラス、未満児、以上児担当など、小規模のミーティングの実施。各クラス単位でも実施。
	② 保護者との信頼関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時を利用した園児の保護者との情報共有は、コロナ禍で玄関対応の変更で十分な情報共有が難しかった。 保護者向け園行事、保育参観の実施は、工夫しながらできる限り実施。 クラス懇談会、個人懇談の実施は、工夫しながらできる限り実施。 個別に配慮の必要な園児について、保護者との懇談は予定通り実施。
	③ 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> 園児確保に向けた努力は、オープンデー等を利用し外部にアピールを実施。 消耗品、水道光熱費等の削減の検討と効率化は、全職員共通理解のもと、床暖房を中止するなど省エネに配慮。 ネット配信活用によるペーパーレス化推進は、HPや、まちコミメールの活用で実施。

令和4年度 事業所別事業報告
事業所 【 認知症対応型通所介護事業所 】

I 令和4年度の状況

令和4年12月当グループホームにて新型コロナウイルス感染症クラスター発生。7名の入居者、4名の職員が感染した。今回は重症化する方はなく収束したが日々入居者の医療依存度が高まる中、更なる感染対策が必要である。

年々通所利用者の減少、重度化による利用終了等稼働数の減少が顕著に見られた。令和5年1月からは利用人数0となったこともあり、令和5年度は認知症対応型通所介護事業の事業「休止」となる。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者のニーズに合わせた個別支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> 本人のできる範囲の作業、特技を活かした作業の提供を行う。 暖かい時期には積極的に外出した。
	② 心身機能を維持し、活力のある生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> 利用中の体調管理に努めた。 暖かい時期に外出を行い施設外での散歩等を行った。 グループホーム入居者と共に毎日の体操は欠かさず行った。
	③ 各事業所・家族との信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時を中心に家族との連携を図った。 担当者会議に参加した。
能力開発	① 学ぶ意識・資質の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> グループホーム職員にもケア内容の周知するためノートの活用や口頭伝達、確認作業を行った。 レクリエーションは集団ではできない方もあり、個別レクを中心に提供した。
	② 認知症に関わる資格取得	<ul style="list-style-type: none"> 認知症に関わる新たな資格取得はなし。 認知症研修に関する資料を回覧し、学習した。
地域	① 地域とのつながりを大切にする	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ（わらわあ会）開催なく参加なし。 地域交流会開催なく参加なし。
	② 防災訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練を実施（年1回）
	③ 地域を理解し信頼関係を築く	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染状況に伴い参加なし。
業務	① 働きがいのある環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> 年5日以上 of 年次有給休暇を取得できた。 送迎中の事故なし。
	② 安定的な経営を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度は利用者3名でスタート。5月末に1名亡くなられ利用終了。9月末に1名在宅生活が困難になり、老健（施設）に入所、利用終了となる。11月に1名骨折で入院され12月は3日間程利用があったが、在宅生活が困難となり利用終了となる。 利用者平均 13.25名/月と大幅に減少した。（目標：36名/月） 令和5年度4月1日より事業「休止」
	③ 接遇力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 接遇に関する個人評価表を作成し、毎月評価を行い、接遇力向上に努めた。

令和4年度 事業所別事業報告

事業所 【 三喜苑西郷 】

I 令和4年度の状況

今年度の延べ利用者数は3,327人と令和3年度より64人の減となった。平均要介護度や要介護実績者数、月平均稼働率等は前年度とほぼ変わらず、前年度からの収入増には繋がらなかった。前年度同様新型コロナウイルス感染症による影響が大きく、利用者や家族の新型コロナウイルス感染症罹患や利用控えも一つの要因となった。また倉吉市という立地から競争相手が多く、なかなか利用者の獲得に繋がらないことも一因として挙げられる。今後も各関係機関との信頼関係を深めるとともに、職員の質の向上やサービスの質の向上を目指し、安定的な経営ができるよう努めていく。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者に応じた機能訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> 機能訓練計画書延べ 136名作成。訓練実施者数延べ2, 683名。評価者数延べ 351名。 午前にラジオ体操やテレビ体操、午後に生活リハビリ体操等を実施した。 移乗介助等が必要な方に対してスライディングボードやターンテーブルを活用。介助者の腰痛予防にも繋がった。
	② 能力や好みに応じた活動の提供	<ul style="list-style-type: none"> 興味関心チェックリスト作成し、個人の好みに合わせた個別活動の充実を図った。(読書、塗り絵、パズル、作品作り、囲碁、散歩等) コロナ感染症対策のため、ボランティアの来苑行事が実施できなかったが、職員でできる催しや手作り昼食、少人数でのドライブ等で工夫しながら行事の充実を図った。
	③ 各事業所との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議延べ35件参加。照会・情報提供35件。昨年度同様新型コロナウイルス感染症予防のため、開催が中止か少人数での実施となり会議件数は少なかったが、照会や情報提供を行い連携強化に努めた。 毎月翌月の1日から2日までには実績報告を行った。各事業所へのモニタリング評価も毎月遅れなく提出した。 各事業所の訪問は、新型コロナウイルス感染症のため最低限での実施だったが、細めな報告・連絡・相談は即時実施した。年5回広報誌を発行し空き情報を伝えたり、ケアマネにも直接情報を伝え利用者の獲得に努めた。
能力開発	① 資質向上と人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 「接遇」「認知症」「セルフケア」「メンタルヘルス」「腰痛予防」「人権」「食中毒」等について、年8回通所ミーティング内で勉強会を実施し、その後のケアに活かせる具体例も挙げ取り組んだ。 全体会は何度か家庭の事情等での欠席があったが、毎月9割以上の出席あり。欠席者は後日動画研修等で学んでいる。施設内研修は全員参加。外部研修は認知症実践リーダー研修に1名が参加し修了した。 年2回主任・リーダーによる個人面談を実施し個別指導を行った。コーチング技術を再確認し指導を行い、必要時は個人指導も行った。
	② サービス向上、利用満足度を上げる	<ul style="list-style-type: none"> 利用者、家族向けアンケートを11月に実施。12月に集計し1月に結果を報告。良い以上98%。(リハビリについては86%) サービス向上委員会を中心に、毎月接遇評価を実施。特に言葉遣いや態度についての評価を行い改善を図った。一部の職員に対しての個人指導も行った。 利用者の変化(体調など)の早期発見に努め、迅速な報告を行った。事故発生件数は1件(爪切り中誤って皮膚を切る)だった。
地域	① 地域貢献と地域への発信	<ul style="list-style-type: none"> 4月と10月の奉仕作業にそれぞれ2名ずつ参加した。 福生会ニュースを計9件掲載した。 高校生のボランティア等の予定はあったが、新型コロナウイルス感染症の影響で全て中止となった。
業務	① 安定的な経営	<ul style="list-style-type: none"> 要介護者実績者数 平均7.65名/日、収入平均 1,930,912円/月、年間延べ利用者数 3,328人、平均稼働率 65.6%/月。 利用者の新型コロナウイルス感染症罹患による影響や大雪による天候不良の影響あり。年間稼働日数256日。5日間自主休業、1日間縮小営業。 新規利用者12名、利用終了者7名(年間実人数)。 科学的介護推進体制加算、ADL維持等加算(Ⅱ)、個別機能訓練加算(Ⅰ)、個別機能訓練加算(Ⅱ)、サービス提供体制強化加算(Ⅰ) 入浴介助加算(Ⅰ)、介護職員処遇改善加算(Ⅰ)、特定処遇改善加算(Ⅰ) 口腔・栄養スクリーニング加算(Ⅰ)を取得。
	② 業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 各利用者のアセスメントや個人情報を入力。各報告書や計画書等の進捗情報や稼働率の統計等のデータを活用し、業務削減にも繋がった。 業務マニュアルの検討、作成を行った。来年度も継続し都度修正していく。 年度初めに担当に業務を分担した。毎月業務が遂行できているか確認し、担当によって遅れが出る場合は、協力して遂行した。
	③ 職員の健康維持及び福利厚生	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が年5日以上有給休暇を取得できた。 欠員が出た場合や、新型コロナウイルス感染症対応の業務等での残業は多少あったが、1日1時間を超すことはなかった。上限規制を遵守できた。 労働災害1件(利用者宅の階段での転倒)あり。

令和4年度 事業所別事業報告
事業所 【 居宅介護支援事業所 】

I 令和4年度の状況

昨年度は介護報酬の改定が行われ、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて引き続き地域包括ケアシステムの推進を図ることに加え、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中、「感染症や災害への対応力強化」が方針のひとつとして追加された。新型コロナウイルス感染拡大状況や災害発生状況に合わせ、居宅介護支援事業所・介護支援専門員として、これまでとは違った状況下においても必要な介護サービスを継続的に提供できる対応力、調整力が求められることが多かった。特養での新型コロナウイルスクラスター発生に伴い、三喜苑サービスの利用ができなくなり、急遽他のサービス、他事業所の利用調整が必要な利用者が多くあり予定外の対応を行った。また、これまでも介護支援専門員や、介護支援専門員が行うケアマネジメントの質が問われてきたが、自立支援、重度化防止という視点に加え、主治医や医療機関との更なる連携強化、健康状態の把握、地域の力の活用等利用者のケアプランに位置付けることも重要視されており、実際に自分たちの行っているケアマネジメントを確認するため、保険者によるケアプラン点検が毎年実施されるようになった。居宅介護支援事業所、介護支援専門員の業務は増えつつあり、業務の整理や効率化を行い、働き方改革にも努めた。

II 評価

項目	重点目標	評価
サービス	① 利用者の自立を支援する一連のケアマネジメントを適切に行う	<ul style="list-style-type: none"> 課題分析の内容を充実させ、整合性のある内容、且つ利用者・家族にわかりやすい内容で作成することに努めた。 ケアプラン点検に自信を持って事例を提出できるよう事業所内で定期的に互いのケアマネジメントとケアプランを確認し、ケアプラン点検では指摘や指導はなく評価をしてもらうことができた。
	② 医療との連携を強化し、日々の健康管理と入退院支援の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の薬に関する状況（処方薬の確認、服薬状況等）を把握し、服薬支援等対策を講じた。 入院中の利用者の状況確認を適宜行い、退院支援は医療機関と十分な連携を図り、退院支援がスムーズにできた。プラン変更が必要な利用者は見直しを行い、変更後の評価も確実にに行った。
能力開発	① 個々の希望や能力に合わせた目標を持ち、達成を目指す	<ul style="list-style-type: none"> 介護支援専門員個々の目標を設定し、目標に合わせた学びの計画を立てた。新型コロナウイルス感染状況により集合研修の実施は殆どなかったが、オンライン研修は積極的に参加した。オンラインではあったが他事業所の介護支援専門員や多職種と顔の見える関係づくりができた。
地域	① 利用者が住み慣れた地域で生活が続けられるよう、地域ができる支援を知り、つながりを作る	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染状況により、民生児童委員との関わりは積極的に持つことができなかったが、利用者個々の地域での支援体制を確認し、必要な支援を調整することで見守り体制の強化を図った。 地域独自の制度やサービスを知り利用者支援に活用した。
業務	① 利用者確保（介護報酬請求利用者を、要介護を64件/月、要支援・事業対象者を15件/月維持）※要支援・事業対象者は1件=0.5件で計算：1人35件維持	<ul style="list-style-type: none"> 管理表を用いて、適切なケアマネジメント実施のための管理・調整を各介護支援専門員、管理者が行った。 法的根拠に基づいた仕事ができるよう居宅内の会議の場で法令の理解を深めるために勉強の機会を持った。 月平均要介護65件、要支援・事業対象者11件請求。（1人平均：35.25件）
	② 働きやすい職場環境をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 定時（所定労働時間）で退社できる取り組みを続け、定時で退社できる日は少なかったが、大幅に業務を見直した。